



ENGAGE ROTARY CHANGE LIVES

2013-14年度 国際ロータリーのテーマ

ロータリーを実践しみんなに豊かな人生を

山形南ロータリークラブ会報

ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2800

RI会長：ロン D・バートン 2800地区ガバナー：新関 彌一郎 ガバナー補佐：高橋 一夫
会長：松田 勝彦 幹事：菊地 賀治 会報委員会 委員長：土田 貴英
委員：金田 亮一 阿部 浩一 太田 昭一 出山 和彦 東内 修司

第2042回例会

2014-6/10 (火) 天気 (晴れ)

□例会場：ホテルキャッスル
□点 鐘：PM 12 :30 松田 勝彦 会長

□司会進行 (SAA)：阿部 薫 君
□ロータリーソング：「奉仕の理想」

会長挨拶



皆さんこんにちは。本日は、お試し例会に熊谷さんがみえております。宜しくお願いいたします。
江戸時代は治安が悪いと思って いる人が多いですが、実はそうではなく、治安は良かったようです。それは、家康が法を重んじ厳しく取り締まっていたからです。慶長9年(1604年)の頃、町奉行を北と南に分け、一月ごとに交代して勤務させ奉行が商人らと癒着しないようにしたと言われて います。買収はまかりならんという訳です。法も又厳しいもので、十両盗むと首が飛ぶと言われて いました。利口な泥棒は、九両三分二朱まで盗んで、首切りを逃れたの

です。特に火付け、盗み、殺しは厳罰に処せられました。見せしめのために市中引回しのう え、千住の小塚原や鈴が森で処刑されたのです。今でも小塚原のあたりに涙橋という所があり、あの橋を渡るときにはこの世の別れだと涙をこぼした事から付けられた名前だそう です。
今、マンションに多くの人が住んでいるように、江戸では多くの人が長屋に住んで いました。その長屋から一人悪人が出ると家主も同罪とされました。つまり連帯責任でありますから、親不孝や悪いことをする子供は、近所の人 がみんなで叱り、助け合うのが当然の時代でした。家康はこうして厳しさを持って、規律ある社会を作っ ていったのです。

幹事報告

菊地 賀治 幹事

- 今年度も今回を含めましてあと3回の例会となっております。
1. 本日、高橋一夫ガバナー補佐をお迎えしてのクラブ協議会をワシントンホテルで6時30分から開催いたします。理事・役員・小委員長の方宜しくお願いいたします。
 2. 6月24日最終例会となりますが、近日中にご案内を事務局からFAXさせていただきます。親睦活動委員会で非常に中身の濃い最終例会を企画しておりますので皆様お楽しみにしていただければと思います。
 3. 2800地区第5ブロック会員名簿作成のため、これから回しますのを見て頂き、誤りがないか確認をお願いいたします。新人の方は後ろの空欄に項目に合わせてお書きください。



委員会報告

- ニコニコBOX 谷口 義洋 君
- 菊川 明君 先週の引継ぎ例会に出席できませんでした。申し訳ありませんでした。
 - 武田 和夫君 6月1日にシドニーで国際大会があり行って参りました。
 - 東内 修司君 本日、卓話をさせていただきます。宜しくお願いいたします。
 - 阿部 浩一君 家内の誕生祝いでお花が届きました。ありがとうございます。
 - 佐藤 直人君 21日が結婚記念日です。ニコニコいたします。
 - 松田 勝彦君 佐藤君・熊谷君のスポンサーです。宜しくお願いします。
 - 布施 富将君 ライラに職員が参加してきました。ありがとうございました。
 - 高梨 和夫君 結婚記念日・妻の誕生日 ありがとうございました。



例会場／ホテルキャッスル 例会日／毎週火曜日 12:30～13:30

事務所／山形市十日町1-1-26 歌懸稲荷神社 社務所ビル2F TEL.023-632-7777 FAX.023-624-5200



株式会社 グランクール
代表取締役 雑倉 拓史君

みなさん、こんにちは。
本日卓話をさせて頂きます雑倉拓史です。職業分類はレストラン業で、南原町にあるコットンストリートというレストランをさせて頂いております。

さて、私は東京で一応生まれ育ちましたが、私の生まれた町は西部にある八王子市というところで。八王子市というと、皇室墓地であります武蔵野陵墓地、北島のサプちゃんの大使宅やミシュランで取り上げられた高尾山があったりと、比較的に東京の中でも自然が残っているところでもあります。

私は八王子の公立 小中学校に入学卒業した後、中央大学付属杉並高等学校に入学しました。その学校は卒業生のほぼ全員が中央大学に進学するのですが、高校入学してからなぜか勉強より課外活動に力が入ってしまったのもありますが、大学進学を選びきれず、昔からなりたい職業であった料理人になるために、辻調理師専門学校に進みました。

卒業後フランスにあります辻調理師専門学校フランス校に進学し、そのフランス校で半年生活しながらフランス料理を学んだのち、フランス北東部にありますフランス第4の都市のストラポールにあり、ピュルイゼルという3つ星レストランで半年間働いてきました。その後日本に帰国し東京のフランス料理店で修業がはじまりました。

修業時代はファミリグループにも働かず、それ以上の労働時間と労働条件で働き、職人の世界独特の理不尽さにも負けずに頑張っておりました。そんな修業時代が続いた中で、あるお店のシェフ(調理場の2番手)の仕事が舞い込みまして、4年ほど働いた中で、もう一度フランスに修行に行こうと一念発起し、お店をやめて、フランスの資金作りを始めるとなりました。料理人の給料では中々お金も貯まっていなかったため、いったん実家に戻りまして、朝の10時から夜10時まで、知り合いの紹介で入ったホテルで働き、夜11時から朝6時までファミリレストランでバイトしてお金をためていました。大変な修業時代ですが、バテそうになりながらも、このときばかりは、大変だったブランクな修業時代に身に付いた気力・体力に感謝したものです。バイトしながらではありますが、フランスでの仕事先も、以前働いていた3つ星のシェフに手紙を書きバリの3つ星レストランを紹介して頂き、順調に準備が整いつつありますが、あと半年したらお金もたまりフランスに行けると思っていた時に、私の人生の分岐点がありました。

ある日、私が20歳くらいの頃お世話になっていた方が、私に突然連絡してきました。当時その方は山形の米沢で中古車・飲食店と何店舗か経営されていると聞かされました。そして、山形市に今度大きな飲食店をつくるといういま、オープニングのスタッフが集まらない、洋食部門と総料理長がいなくてとか話がどんどん深刻さを増していっているのです。なんだか嫌な予感を感じてきたので、わざと人ごとのように聞いていたのですが、予感はずかしくなりました！

半年一年でいいから、立ち上げだけ手伝ってほしいと何度も連絡してくるのです。まだフランスに行くには時間もあつたのは事実ですが、当時は何の縁もゆかりもない山形だけにお断りもしたが、何度も頭を下げられたうえに、昔大変お世話になった方ということもあり悩みのたのち、お金も貯まり立ち上げの経験もできると思いついて、半年なら大丈夫ですと山形に行くことを決断しました。案の定周囲の反対はすごいのでしたが、半年で帰ってくるからと親も納得し、2002年の1月下旬に山形にやって参りました。

しかし、4月にオープンが遅れていたお店が開店したのと同時に、私は半年では絶対に東京に帰れないと覚悟を決めたのを今でも覚えています。なぜなら店のスタッフを見渡す限りほとんどが素人。さらにオープン風景のすさまじい忙しさに奪路者が続出。本当に帰れなくなりました。

母にはいまだに内緒ですが、仕方なくフランスには母が病で倒れてフランスに行くのが遅れると、嘘の手紙を書き契約を保留にもしていました。更に一年経つと経営者と合わないと従業員が次々と辞め始め更に窮地に。この状況を改善してやりたいと直訴もしましたが、変わることもないまま2年が経ちました。

更に悪い事は続くもので、2年半がたったころお店の状況がだんだんおかしくなり始めました。会社が経営していた他の店舗などの業績不振で、こちらにも影響がはじまったのです。そして2005年の5月に会社が倒産。途方に暮れそうだったのですが、同じように取り残された従業員もいたのにも関わらず、このまま結果も出さず自分自身が東京に帰れないとおもいまして、いろいろな方のご協力を仰ぎ、私がお店を立て直していくことに決めて、現在に至ります。その他に何をお話しようかと悩んだのですが、私がフランスにいた時に、言葉が分らなかつたり、文化が違う為に色々困ったり、びっくりした時のお話をさせて頂きます。

初めてフランスのシャルルドゴール空港に降り立ち、機内から滑走路を眺めた時に、滑走路の付近にたくさんウサギがいるのに驚きました。滑走路わりの草地に巣穴をほって住んでいるなんて、なんておおらかな国なんだとびっくりしました。

そのほかには、人とのコミュニケーションでも、当初大変苦しかったです。日本では絶対にあり得ない、あいさつでのキスです。もちろん、基本的には関係のない見ず知らずの人とはしませんが、私が初めてあいさつした時はなんとも言えない気持ちでした。相手は私より3つ位上のきれいな女性でした。あいさつなのになんだかドキドキする自分も恥しかったのですが、女性が私より大きい方だったので、初めての上を向いてキスというダブルの初体験だったことがとても恥ずかしくかったです。距離感といいですか、体制といいですか。

さらに大晦日の夜仕事もない日だったのでぶらぶらと町を歩いていた時のこと。急に火花が上がり町中がお祭り騒ぎに！なんだと思ったら年が明けた知らせだったのです。周りではフランス語で明けましておめでとうが連呼されると同時に、新年のあいさつでキスがどんどん始まりました。もちろん私も周りにいた、ひげの濃い屈強な男たちと何人もキスをする羽目になりました。挨拶なので相手は普通なのですが、自然に受け入れるには中々大変だなあと思った瞬間でもありました。

なんだか最終的にあいさつでのキスの話みたいになっってしまうのですが、今月で山形南ロータリーに入会して頂いてから丸一年がとうとうとうとうとあります。そして経営者になって10年目を迎えて頂きましたが、まだまだ、勉強不足であります。これからも皆さまからご指導ご鞭撻頂きながら頑張っていきたくて思っておりますので、どうか宜しくお願い致します。面白い話であったかはわかりませんがご清聴をありがとうございます。



アフラック山形
支社長 東内 修司君

【自己紹介】

昭和42年6月に佐賀県に生まれました。大学卒業まで佐賀におり、就職とともに各地を転々としていますが、山形は15ヶ所目の転勤であり、雪国は初めての経験となっております。

小さいころから野球が好きで、高校3年の時には佐賀商業にて甲子園にも出場させていただきました。その後、野球は41歳まではやっていましたが、今は機会もなく何にもしていません。もしチームとかご存知の方がいらっしゃったらご紹介ください。

【会社紹介】

それでは、アフラック(アメリカンファミリー生命保険会社)についてお話をさせていただきます。1970年の大阪万博の時に来日した社長が、多くの人がマスクを着用していることに着目し、その理由を聞いたところ「日本人はかぜをひかないようにすることと周りの人にかぜをうつさないことと気を付けマスクを着用している」と回答したそうです。それを聞いた、社長はこれだけ健康意識の高い国民は他に類を見ないとのごとで、次は日本に進出することを決めたそうです。

免許取得まではいろいろとありましたが、1974年に日本初のがん保険を販売開始することができました。当時は「がん」は不治の病であり言葉にすることさえ忌み嫌われるものだったそうです。しかしながら、企業の福利厚生として位置づけにより、徐々に広まってきております。今では2,100万件という日本で一番の保有契約を持つ会社にまで発展することができました。

そういうアフラックもおかげさまで日本社創業40周年を迎えることができました。本当にありがとうございます。

【山形県のがんの現状】

ご存知の方も多いとは思いますが、山形県におけるがんの死亡率は非常に高く、全国で第9位となっています。1位は秋田県で、2位が青森県と、東北は比較的高いがんにおける死亡率の高いエリアとされていて問題ないでしょうか！

部位別に申し上げますと、1位が肺がん、2位が胃がん、3位が大腸がんとなっています。肺がんはやはりたばこの喫煙との因果関係が大きいのです。1日たばこを1箱(20本)吸われる方とたばこをまったく吸わない方は、吸っている方が約6倍も肺がんになりやすいというデータがあります。また、たばこを吸われる方は、お酒も好きな方が多いように感じますが、たばことお酒を毎日摂取される方と、たばこもお酒もまったくやらない方では、食道がんになる確率が、なんと30倍も違うのです。たばこの中にある有害物質は水には溶けませんが、アルコールには溶けるのです。つまり、たばこを吸いお酒を飲むと口の中にある有害物質が体の中に入って行くことになるのです。

2位の胃がんは塩分です。魚釣りをされる方も多いと思いますが、釣ったばかりの魚の表面はぬるぬるしていると思います。そのぬるぬるを取り除くのは塩です。よね！つまり、大量の塩で魚の表面の粘膜を取り除く作業になります。胃の表面も粘膜です。過剰な塩分を摂取することは、魚の表面と同様に、胃の粘膜を傷つけてしまうことになります。

大腸がんは、食生活の欧米化ですね！肉や油などはもともと農耕民族である日本人には負担が大きいようです。女性や美食家の方に多いのも特徴といえます。

また、最近よく耳にするのが前立腺がんです。最近では人間ドックなどで、PSA検査を受ける機会も多くなってきていると思います。発見が早いといのはいいことなのですが、今までは発見されなかつた小さなものまで発見されるようになっているのが現状です。

最近特に前立腺がんにかかってしまっただらどうしたらいいの？という質問を受けるようになりました。今までは開腹して手術することが多かったのですが、腹腔鏡やダ Vinci など高度な医療技術を使う選択肢も増えてきています。また、放射線や小線源療法、そして2018年位完成するといわれている山形大学の重粒子線治療なども選択肢とあげることができます。

3人に1人の方が亡くなり、2人に1人ががんにかかるという時代です。身近な病気となってしまったからこそ備えも必要です。また、「セカンドオピニオン」という言葉もよく耳にしますが、私は最初の治療方針の決定こそが一番重要だと思っています。いわゆる「ファーストオピニオン」です。情報が錯綜する時代だからこそ、相談できる相手がいるということが重要になるのです。

最後に、アフラックは2008年3月に山形県とがん検診受診率向上に向けた協定を締結させていただきました。その一環として、今年も7/19日に女性のための「心と体」元気アップセミナーを山形テルサで開催します。

せっかく縁があった山形に来たのですから、少しでも山形のみなさまのお役にたてればと思います。今後も自分ができることを積極的に取り組んでいきたいと思っております。ご清聴ありがとうございました。



○本日出席・前回修正出席

	会員総数	出席義務会員数	出席会員数	出席率
本日	55名		38名	
前回修正	55名	43名	43名	100.0%
他クラブで メイクアップ された会員	(山形中央) 寺嶋 利彦 (山形北) 伊藤 誠 渋谷 一男 武田 秀則	鈴木 利明 阿部 浩一 武田 寿美男	渋谷 一男 鈴木 利明	

※本日の結果は2週間後に報告
※修正は2週間前の結果報告
出席会員数÷算出会員数=出席率
算出会員数とは?
出席義務会員+メイク免除会員の出席者
出席会員数とは?
出席義務会員の出席者+メイク免除会員の出席者+メイク会員